

山梨大学医学部附属病院看護部・山梨大学医学部看護学科 連携プロジェクト

—基礎・継続教育部門の活動からみえた課題—

井上 貴美¹⁾, 萩原千代子¹⁾, 磯野 絵美¹⁾, 石川眞里子²⁾, 石井くみ子²⁾, 安藤 晴美²⁾, 大日向陽子²⁾
INOUE Takami, HAGIHARA Chiyoko, ISONO Emi, ISHIKAWA Mariko, ISII Kumiko, ANDO Harumi, OHINATA Yoko

I. はじめに

山梨大学医学部看護学科と山梨大学医学部附属病院看護部は、平成 27 年より教育・研究、看護実践の質の向上を図ることを目的として連携を開始した。その連携は「教育部門」「研究部門」「地域連携部門」「高度臨床看護実践部門」の 4 部門から成り、「教育部門」は、『基礎・継続教育』と『臨地実習指導者教育』から構成されている。

『基礎・継続教育』では、次世代の人材育成および看護の質の向上を目指すことを目的として、看護学科と附属病院との間で情報交換や、学生の学内演習へ看護師に指導を依頼したり、新人研修に教員が参加してプログラム全体を検討したりするなどして相互理解を深め、連携を図ることとなった。平成 28 年度からは、看護学生から新卒教育に繋がる技術教育について検討し、看護技術の知識(理論)や実践を習得できる研修会(以下、スキルアップセミナー)を企画・実施してきた。今回は、3 年間取り組んできたスキルアップセミナーの実施状況とアンケートの結果をまとめ、今後の看護技術研修における課題を検討した。

II. 目的

看護学科・看護部連携プロジェクトの一環として看護師と学生の看護技術の向上を目的としたスキルアップセミナーの実施結果から、今後の課題を検討する。

III. スキルアップセミナーの準備

『基礎・継続教育部門』の委員において定期的に会議を開催し、研修要綱やポスター作製、セミナー準備等を行った。

1. セミナーの内容の検討

セミナーのテーマ・目的・目標・日時・研修方法・対象者・講師・場所を検討し年間の計画をたてた。テーマは学生と看護師が看護技術演習の中で知識を復習して整理でき、繰り返し実施することで習熟度が上達できる技術について検討した。目的と目標は、その技術の基礎知識の必要性や正しい方法が理解できることとした。研修方法は専門家による講義(30 分)と演習(30 分)で構成した。日程に関しては、3～4 年生の学生の実習期間を避けて、心身疲労がない実習前や試験の後の休暇に入る前の時期で参加しやすいことや、参加を契機に少しでも自信をもって実習に臨めることを期待できる時期を検討した。一方で夜勤がある看護師には参加し易いように 2～3 回の研修のうち 1 回は午前中の時間に設定した。対象者は看護学科 3～4 年生の学生と附属病院の看護師としたが、看護師は新人看護職員だけでなく経験のある看護師も参加できるようにした。講師は病院に勤務している認定看護師や言語聴覚士・医師等に依頼した。場所は演習をするため看護学科の実習室や講義室を使用することとした。

2. 募集方法について

学生には、看護学科教員がインターネットのスケジュール調整や QR コードを組み込んだポスターを作成することで学生が時間と場所を選ばずセミナーの詳細を確認でき申込みがしやすくなるように工夫し、学生掲示板(CNS)の活用や授業で告知を行って参加を呼び掛けた。看護師に対しては看護師長会議でセミナー開催の説明を行い、要綱とポスターを各セクションに配布をした。

3. スキルアップセミナーの評価

スキルアップセミナー参加者全員に終了後のアンケート調査を行うこととした。その内容は、1)属性、2)参加動機、3)セミナーの目標達成度、4)セミナー企画内容の必要性・内容レベル・時期・時間・時間帯、5)今後も同様のセミナーに参加したいと思うか、6)今後実施を希望するセミナーの内容(自由記載)、7)看護師と看護学生と一緒にセミナーを受けることの効果とした。

受理日：2019 年 1 月 17 日

1) 山梨大学医学部附属病院看護部：University of Yamanashi Hospital, Nursing Department

2) 山梨大学大学院総合研究部医学域看護学系：University of Yamanashi, Graduate school of Interdisciplinary Research, Faculty of Medicine, Division of Nursing Science

IV. 開催したスキルアップセミナーの概要(表1)

スキルアップセミナーは平成28年度より開始し、平成30年度現在までに7回実施した。参加人数は学生108名、看護師141名で合計249名であった。以下にそ

の内容を記述する。

1. 標準予防策

標準予防策における手指衛生・防護具の知識・技術を理解し、実践できることを目的に現在まで3回(延べ10

表1 スキルアップセミナーの概要 (平成28年度～平成30年度)

年度	回数	開催日	テーマ	目的・目標	講師	参加者 ³⁾
平成28年度	第1回	2/13 2/14 2/15 2/16 2/17	標準予防策できていますか？ もう一度おさらいしてみよう	目的：標準予防策における手指衛生・防護具の知識・技術を理解し、実践できる 目標： 1. 標準予防策が理解できる 2. 手指衛生が正確にできる 3. 防護具の着脱が正確にできる	感染管理認定看護師 ¹⁾	学生 16名 看護師 25名
		7/26 7/27 7/28	言語聴覚士に学ぶ誤嚥防止のための食事介助	目的：嚥下困難のある対象者の食事介助の知識・技術を理解し、実践できる 目標： 1. 嚥下の基礎知識が理解できる 2. 嚥下困難のある人の食事介助の方法がわかる 3. 嚥下困難のある人の食事介助が安全に実践できる	言語聴覚士 ¹⁾	学生 35名 看護師 29名
平成29年度	第3回	8/29 8/30 8/31	標準予防策できていますか？ もう一度おさらいしてみよう	目的：標準予防策における手指衛生・防護具の知識・技術を理解し、実践できる 目標： 1. 標準予防策が理解できる 2. 手指衛生が正確にできる 3. 防護具の着脱が正確にできる	感染管理認定看護師 ¹⁾	学生 15名 看護師 25名
	第4回	2/13 2/14	呼吸器の病態生理とNPPV(非侵襲的陽圧換気療法)の特徴を学ぼう	目的：呼吸器の病態生理とNPPVの特徴が理解できる 目標： 1. 呼吸器系の病態生理が理解できる 2. NPPV適応患者について理解できる 3. NPPV使用時の観察点・注意点について理解できる	第二外科講座医師 ²⁾ 臨床工学技士 ¹⁾	学生 7名 看護師 29名
	第5回	2/27 3/1	言語聴覚士に学ぶ正しい口腔ケア	目的：口腔ケアに関する基礎知識・技術を習得することができる 目標： 1. 口腔ケアの基礎知識が理解できる 2. 口腔ケアの方法がわかる 3. 介助を要する人の口腔ケアを実践できる	言語聴覚士 ¹⁾	学生 9名 看護師 6名
	第6回	7/30 7/31	言語聴覚士に学ぶ正しい口腔ケア	目的：口腔ケアに関する基礎知識・技術を習得することができる 目標： 1. 口腔ケアの基礎知識が理解できる 2. 口腔ケアの方法がわかる 3. 介助を要する人の口腔ケアを実践できる	言語聴覚士 ¹⁾	学生 19名 看護師 24名
平成30年度	第7回	8/24 8/31	標準予防策できていますか？ もう一度おさらいしてみよう	目的：標準予防策における手指衛生・防護具の知識・技術を理解し、実践できる 目標： 1. 標準予防策が理解できる 2. 手指衛生が正確にできる 3. 防護具の着脱が正確にできる	感染管理認定看護師 ¹⁾	学生 7名 看護師 6名
	第8回	1/17 1/18 予定	皮膚・排泄ケア認定看護師に学ぶポジショニング	目的：安全で安楽なポジショニングの基礎知識・技術を習得することができる 目標： 1. ポジショニングの基礎知識を理解できる 2. ポジショニングの必要性が理解できる 3. 安楽なポジショニングが実施できる	皮膚・排泄ケア認定看護師 ¹⁾	

1)山梨大学医学部附属病院 2)山梨大学医学部 3)参加人数は延べ人数



標準予防策の手洗いの様子



標準予防策ポスター



NPPV マスク装着の様子



食事介助時の嚥下の確認



口腔ケアの様子



口腔ケアポスター

回開催) 実施し、学生 38 名、看護師 56 名が参加した。手洗いやガウンの着脱は日常的な技術であるが、実践の中で自己流になることがあり、そのために正確な手技として自信をもてないことがある。参加した看護師は新人のみでなく、中堅看護師であったことが特徴的であった。

2. 食事介助

嚥下困難のある対象者の食事介助の知識・技術を理解し、実践できることを目的とし、言語聴覚士から講義や演習指導を受けることで安全な技術の習得を目指した。1 回 (3 回開催) 実施し、参加人数は学生 35 名、看護師 29 名であった。患者さんへの食事介助は介護施設での実習や臨床現場では高い頻度で行われる看護技術であるが、嚥下困難という病態や口腔機能の仕組みの理解が不可欠であることから難しい技術でもあるので、専門家による指導で安心して技術習得ができる内容であった。

3. NPPV (非侵襲的陽圧換気療法)

在宅において NPPV 療法を受ける患者が年々増加している現状がある。呼吸器の病態生理と NPPV の特徴が理解できることを目的に、呼吸器外科医師より講義を受け、基礎知識を確認後に臨床工学技士よりマスク装着方法や機械の取り扱い等の説明と演習を行った。実施回数は 1 回 (2 回開催) であり、学生 7 名、看護師 29 名が

参加した。NPPV 療法は在宅において患者自身で呼吸器の装着や管理ができるようになるための技術でもあり、看護師による生活や機器の管理の指導をする機会も増えていることから、参加者が多かったと考えられた。

4. 口腔ケア

口腔ケアに関する基礎知識・技術を習得することができるところを目的に、言語聴覚士の指導の下でより高い技術の習得を目指した。実施回数は 2 回 (4 回開催) であり、参加人数は、学生 28 名、看護師 30 名であった。口腔ケアを必要とする患者は身体機能の低下に限らず摂食・嚥下障害などの口腔機能の低下があることが多い。そのため口腔清掃という清潔ケアだけでなく、口腔機能回復も含めたりハビリト的ケアが求められる。機能回復を意図した技術であることを再認識できた研修であった。

V. セミナーのアンケート結果および検討 (表 2)

アンケート結果について、テーマによって特徴が見られたので各テーマで代表する 1 回を挙げ表 2 に示した。

参加動機について、テーマに関心があったのは NPPV (86.1%)、口腔ケア (58.1%) であり、テーマの看護技術に課題がある (練習が必要・復習したい) のは口腔ケア (55.8%)、NPPV (52.8%)、標準予防策 (52.5%) と、半数以上が関心を持ち課題を認識していた。

表2 スキルアップセミナー終了時のアンケート結果

		食事介助 (第2回)	標準予防策 (第3回)	NPPV (第4回)	口腔ケア (第6回)
		人(%)	人(%)	人(%)	人(%)
参加人数(アンケート回収率)		64(98.4)	40(100)	36(100)	43(100)
1) 参加動機	テーマに関心があった	30(47.6)	12(30.0)	31(86.1)	25(58.1)
	テーマの看護技術に課題がある	24(38.1)	21(52.5)	19(52.8)	24(55.8)
	看護部・看護学科の共同開催である	4(6.3)	2(5.0)	2(5.6)	
	認定看護師(専門職)に教えてもらえる	7(11.1)	1(2.5)	9(25.0)	15(34.9)
	その他	3(4.8)	4(10.0)		5(11.6)
目標達成度	基本的知識の理解	理解できたと思う	52(82.5)	36(90.0)	20(55.6)
		やや理解できたと思う	11(17.5)	4(10.0)	16(44.4)
	方法の理解	理解できたと思う	44(69.8)		15(41.7)
		やや理解できたと思う	19(30.2)	21(58.3)	13(30.2)
	正確で安全な実施	実施できたと思う	29(46.0)	21(52.5)	
		やや実施できたと思う	33(52.4)	18(45.0)	24(55.8)
		あまり実施できたと思わない	1(1.6)	1(2.5)	18(41.9)
		実施できなかった			1(2.3)
	研修の必要性	感じる	59(93.7)	39(97.5)	32(88.9)
		やや感じる	4(6.3)	1(2.5)	5(11.6)
研修の難易度		簡単だった	2(3.2)	6(15.0)	5(11.6)
		あまり難しくなかった	55(87.3)	32(80.0)	27(75.0)
		少し難しかった	6(9.5)	2(5.0)	27(62.8)
		難しかった		9(25.0)	10(23.3)
今後も参加したいか		ぜひ参加したい	38(60.3)	16(40.0)	14(32.6)
		テーマによっては参加したい	23(36.5)	20(50.0)	22(51.1)
		時間があれば参加したい	2(3.2)	3(7.5)	7(16.3)
		未回答		1(2.5)	
看護師と看護学生が一緒に研修をすることの効果		効果があると思う	34(54.0)	17(42.5)	9(25.0)
		やや効果があると思う	26(41.3)	20(50.5)	24(55.8)
		あまり効果があると思わない	3(4.8)	3(7.5)	17(39.5)
		効果があると思わない		2(5.6)	1(2.3)

1) 複数回答

〈看護師と学生と一緒に研修を受けることの効果についての自由記載(一部抜粋)〉

- ・看護師と一緒に参加することで具体的な指導をしてもらえ、また緊張感をもちながら演習ができた
- ・看護師が丁寧にわかりやすく教えてくれ、ペアで演習することで現場の話が聞けてよかった
- ・学生と一緒にすることでお互いに手技の工夫や課題を伝えることができた
- ・学生からの意見や質問が自分にはない視点だった
- ・学生とすることは看護師はやりやすいが学生は萎縮してしまう人もいる気がする
- ・あまり交流はできなかったが学生が現場の様子を聞けてよかった
- ・看護師も知らない、勉強が必要であることを機器を使用して体験できることは双方にとっての利点である
- ・短時間の中でなかなか交流ができなかったのも、もう少し学生と話ができるとよかった
- ・看護師と学生の知識が違うため、不明点等詳しく聞けず、学生には難しい話もあった

目標の達成度について、基本的知識の理解で「達成できた」または「やや達成できた」としたのは全ての回で100%であった。特に「理解できたと思う」が多かったのは、第3回の標準予防策(90.0%)、第2回食事介助(82.5%)であった。また、口腔ケアと食事介助で方法の理解が「達成できた」のは69.8%であった。一方で、正確で安全な実施ができたことについて「そう思う」のは口腔ケア(55.8%)と標準予防策(52.5%)であり、知識の到達度より低い傾向が見られた。しかし、これは主観的評価であり、実際に実習や実践場面で活用できるほどの達成であるかについて確認できないことから評価の限界でもある。技術が定着したかどうかは実践の場において評価するしか

ない。

研修の必要性については、「感じる」は88.4～97.5%であり、日常的なケアの技術向上を目指していることが伺われた。

研修の難易度については、全体的に「簡単だった」「あまり難しくなかった」が74.4%～95.0%であった。一方で「少し難しかった」「難しかった」としていたのは5.0%～25.6%あり、NPPV(25.0%)と口腔ケア(25.6%)は難易度がやや上がることが伺えた。口腔ケアは演習で歯ブラシとスポンジを片手で持ちながらケアを進めていくため、実際に行ってみると難しいと感じた可能性がある。またNPPVについては、知識(病態生理)の理解が

(55.6%)と他の技術より低い傾向もあることや、実際にマスクの装着をした場面でエア漏れを体験したことで難しさを感じたのではないかと考える。

今後の研修会への参加については「ぜひ参加したい」「テーマによっては参加したい」は83.7%～100%であった。少数ではあったが「時間があれば参加したい」という回答もあった。現在は年間3回(各テーマ毎2回開催程度)スキルアップセミナーを実施しているが、定期的に開催することで看護師と学生は自己の学習計画の予定を入れれば参加しやすくなると考える。それには、年度が始まる前に1年間の計画を告知し周知していくことも必要であろう。

看護師と看護学生と一緒に研修をすることの効果について「効果があると思う」では、口腔ケア(55.8%)、食事介助(54.0%)とペアでお互いにケアをしあう技術はやや高い傾向はあるが、NPPV(25.0%)のように学生が初めて体験する技術は難易度も高くなり、一緒に学ぶ効果までは感じられなかった可能性がある。また、自由記載の中には「実際の臨床の様子を聞くことができた」「看護師の視点がわかった」「学生からの意見・質問は自分になり視点であった」などがあった。一方で、「もう少し学生と話せる時間があるとよかった」という意見も聞かれ、看護師と学生がペアやグループになって演習することで、交流が生じ共に学び合える機会となっていることが分かった。短時間の研修においても交流の仕方を工夫することで、技術向上を目指すグループとしての自主的な活動に繋がる機会となることが期待される。

VI. 終わりに

アンケート結果よりテーマに関心があり看護技術に課題があるという動機でセミナーに参加した人はその必要性を感じて参加しており、目標達成度も高かった。また、今後もぜひ参加したい、テーマによっては参加したいという人が多いことから、要望が多く臨床の現場で新たに必要とされる技術を確認しながらセミナーのテーマを決めていきたい。NPPVのように学生が体験していない専門技術の場合は難易度が高いという評価があった。しかし、学生と看護師と一緒に研修を受けるようにしたことで「一緒に研修を受けることで具体的に指導してもらえた」「看護師がわかりやすく教えてくれた」ということがあり、難しい内容であっても学生と看護師と一緒に参加することによる利点が明確になった。連携というかたちでこのような技術教育の機会をつくり定着させることは、看護学科学生にとって日常的に看護師と交流ができ、身近に感じられることで実習や看護のイメージ強化に繋がり、附属病院看護師にとっても日常的なケアの向上に限らず学生と接し教育的視点を持つことで、新人や学生指導という人材育成にも繋がると考えられる。これらの

効果は別々のものではなく相乗効果となるから、スキルアップセミナーを今後も継続し、ケア技術の向上と人材育成に貢献していきたい。